

トスカーナ便り：イタリアの窓

イタリアの街って、道は狭くてグニャグニャしているし、建物も色とか形とか、部分的に見るとなんだかごちゃごちゃ混沌としているのですが、全体的に見るとうまく調和がとれていて綺麗なんです（残念ながら、ここが大阪の街との決定的な違い！）。部分的に見ても、全体的に見ても整然として美しいドイツの街並みとは対照的です。

私が街を歩いていていつも気になる一つ目が窓。

例えばこの写真。ルッカにある、オペラ『蝶々夫人』の作曲で有名な Giacomo Puccini（プッチーニ）博物館の近くの広場です。正面にあるのが Puccini の銅像ですが、ここで注目すべきは銅像ではなく、窓。もっと正確には錠戸（Persiana: ペルシアーナ）。特に色に決まりはないようですが、圧倒的に緑色が多いです。開ける、締めるだけでなく、下半分だけ開けたり、なんだか開け方のバリエーションも形も豊富です。



街の中どこもこんな感じです。日照時間の短い冬は開けていることが多いですが、日差しの厳しい夏なんかは錠戸は閉じることが多いようです。閉めた方が涼しいからですね。☺ あと、錠戸の下半分だけ開くようになっているのは、錠戸を閉めた状態で、お向かいさんと道を挟んでおしゃべりするため。と聞いたことがあります。冗談かと思っていましたが、歩いていて、なんか頭上で声がするな、と思ったら、実際そうやってしゃべってる人何人も見たことあるので、こんな形の錠戸が発達した理由の一つではあるはず。



そしてもう一つが洗濯物！

ドイツに住んでいた時何が困ったかというと、「外から見るとことに洗濯物干したらだめ」というルール。（自宅の庭とかに干すのはOKでも道から見える状態でベランダに布団や洗濯物干すのは景観を損なうのでダメ。なんだそうです）なので、必然的に乾燥機を使うか、窓際で部屋干しになります。（空気が乾燥しているので、梅雨時の日本みたいな感じにはなりません。でも、下着からタオルから全部アイロンを掛けるのです。）でもここイタリアはその点は自由みたいです。☺

こちらの洗濯機は、白いものと色物は分けて洗わないとダメなので、干してある洗濯物も必然的に白物ばかり、色物ばかりになります。干し方にもお作法があるのか、色とか丈とかキレイに揃えてあることも多いです。（どなたのお家か存じませんが、洗濯物なんて写真とってすいません。）



ルッカの観光名所、ローマ時代の円形闘技場の面影を残す楕円形の広場、Piazza dell'Anfiteatro（アンフィテアトロ広場）だってこんな感じです。この広場には毎日沢山の観光客が訪れては写真を撮っていますが、キレイに干された洗濯物も、この広場の風景の構成要素の一つとして、写真に納まっているんですね。☺



鎧戸の話にも通じますが、街中の細い路地で、「お向かいさん同盟」的な洗濯物にも遭遇したことがあります。写真がないので説明が難しいのですが、要は、道を挟んだお向かいさんの窓の外に金具があって、そこに互いの洗濯ロープをループ状に渡してあって、道の上に洗濯物がある感じです。お互い「今から干すよ〜」って感じで干しては互いに時計回りとかでエッホエッホとロープ回すんでしょうかね？干しているところとか取り込むところ、観察してみたいもんです。…イタリアの窓でした。